

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成13年度終了地域事後評価報告書

平成14年10月  
科学技術振興事業団地域振興事業評価委員会

#### 1. 評価の概要

本報告書は、科学技術振興事業団の地域研究開発促進拠点支援(通称RSP: Regional Science Promotion Program)事業(ネットワーク構築型)について、平成13年度に終了した7地域を対象として、科学技術振興事業団に設置された地域振興事業評価委員会によって行われた事後評価結果である。

今回事後評価の対象となった7地域についての評価の概要は次のとおりである。

- (1) 本事業は、概ね順調に成果を上げている。
- (2) 本事業の実施により、科学技術コーディネータの活動によるコーディネート機能の整備・形成が図られた各地域の拠点機関を中心として、今後とも人材の育成・確保、研究開発活動の活性化、連携と交流、成果の普及等がさらに発展するよう、地域独自の取り組みを期待する。
- (3) 特に人材育成は難しい問題であるが、重要である。

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成13年度終了地域事後評価報告書

平成14年10月  
科学技術振興事業団地域振興事業評価委員会

## 2. 事業の概要

### (1) 目的・趣旨

「地域の限られた科学技術資源を有効に活用して研究開発を行うためには、その触媒役というべき優れたコーディネータの存在が不可欠である。コーディネータの役割は、優れた研究シーズとニーズの発掘・結合、優秀な人材の確保、適切な研究チームの組織、資金の調達等多岐にわたる。コーディネータにはこれら高い能力が求められ、地域はこうした優れた人材の育成・確保に努める必要がある。」

本事業は、上記の科学技術会議第22号答申を受け、地域のニーズをふまえた地域内外の人材をコーディネータとして育成しながら、コーディネート機能の充実を図る地方公共団体の取り組みを支援し、文部科学省や科学技術振興事業団等の諸制度を効果的に活用しつつ、地域における科学技術振興と新技術・新産業の創出を図ることを目的に、平成8年度から開始された。

本事業においては、優れた研究開発人材の発掘、研究資源情報の蓄積、研究情報ネットワークの構築、研究者等を対象とする人的交流ネットワークの構築といった機能を地域における科学技術振興のための財団等に構築することを目的としている。

本事業の終了後は、地域に形成されたコーディネート機能を都道府県が継承し、地域における科学技術の振興と地域経済の活性化、生活の質の向上、知的資産の拡充等に向けた活動が展開されることを期待している。

### (2) 事業概要

i) 都道府県からの申込を受け、文部科学省が本事業を実施する都道府県及び地域研究開発促進拠点(拠点機関:地域における科学技術振興のための財団等)を選定

ii) 科学技術振興事業団は、拠点機関に対し科学技術コーディネータを委嘱。科学技術コーディネータは次の事業メニューを行い、さらにその成果を文部科学省や都道府県等の公募型諸制度へ展開。

<1> フィージビリティ・スタディ

- ・研究会による地域の研究シーズ・技術ニーズの探索
- ・研究シーズ育成のための要素技術や研究ニーズ確認等の調査
- ・本格的な研究開発の前段階の可能性試験の実施

<2> 新技術説明会(フォーラム)

- ・地域企業に対する技術シーズの紹介

<3> 開発あっせんのための技術加工

iii) 都道府県及び拠点機関は科学技術コーディネータの支援体制の維持・拡充に配慮し、本事業の成果の普及・増進を図る。

### (3) 事業費

1 地域当たり年間4千万円程度(人件費含)

### (4) 事業実施期間

4年間(原則)

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成13年度終了地域事後評価報告書

平成14年10月  
科学技術振興事業団地域振興事業評価委員会

#### 3. 評価実施方法

本評価は、科学技術振興事業団の地域研究開発促進拠点支援(通称RSP:Regional Science Promotion Program)事業(ネットワーク構築型)について、平成13年度に終了した7地域を対象として、科学技術振興事業団に設置された地域振興事業評価委員会によって行われた事後評価である。

評価結果は、地域から提出された終了報告書および平成14年度第1回地域振興事業評価委員会(平成14年7月18日開催)において行われた面接調査結果にもとづき、とりまとめたものである。

評価の観点は次のとおりである。

- (1) 地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況
- (2) 可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況
- (3) コーディネート活動の公開状況
- (4) 地域におけるコーディネート機能の構築状況および波及効果

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成13年度終了地域事後評価報告書

平成14年10月  
科学技術振興事業団地域振興事業評価委員会

#### 4. 地域ごとの事業展開および評価

青森県 富山県 福井県 岐阜県 京都府 兵庫県 岡山県

##### (1) 青森県

拠点機関：財団法人 21あおり産業総合支援センター  
科学技術コーディネータ：鍋谷 祐夫  
事業実施期間：平成10～13年度

##### 1※地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

地元産業に根ざしたテーマを積極的に取り上げた点、地味ながらも意欲的に可能性試験を行ったことは評価できる。特に、食品関係で実用的なテーマには地域性が反映している。研究プロジェクトの企画においては、規模の小さいプロジェクトから研究者を集める大型方向への展開がみられるが、その広がりが限定的である。可能性試験課題の抽出に関しては、科学技術コーディネータに対する拠点機関および青森県の積極的関与が一層必要である。今後は、可能性試験結果から工業化へ向けた展開方を検討する努力が必要である。

##### 2※可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

地元産業に根ざしたテーマを積極的に取り上げた点、地味ながらも意欲的に可能性試験を行ったことは評価できる。特に、食品関係で実用的なテーマには地域性が反映している。研究プロジェクトの企画においては、規模の小さいプロジェクトから研究者を集める大型方向への展開がみられるが、その広がりが限定的である。可能性試験課題の抽出に関しては、科学技術コーディネータに対する拠点機関および青森県の積極的関与が一層必要である。今後は、可能性試験結果から工業化へ向けた展開方を検討する努力が必要である。

##### 3※コーディネータ活動の公開状況

新技術フォーラムの開催、「青森県研究者便覧」の作成、拠点機関のホームページへの「青森県研究者リスト」「青森産業ネット」の掲載が行われ、RSP事業の浸透への努力が認められる。しかしながら、上記活動についてのフィードバックが不足しており、公開情報の活用状況がコーディネータ活動の充実へ反映されてきたかどうか疑問である。今後は、地域におけるコーディネータ活動の啓蒙を一層図り、ホームページでの公開情報の更新や新規コンテンツの作成へ向けた取り組みを期待する。

##### 4※地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

優れた研究開発人材の発掘、研究資源情報の蓄積、研究情報ネットワークの構築、研究者の人的交流ネットワークの構築等の取り組みは、一定の成果を見ることができる。弘前大学の地域共同研究センターとの連携はよが、他の大学等との連携はやや不十分な点がある。青森県を4地域に分けてコーディネータ活動を行ったことは特徴的であるが、この方式をベースに今後のコーディネータ活動がどのように発展していくか、そのことによって波及効果として青森県が期待するものを明確にすべきである。

##### 5※総合評価

地元の特性を優先し、県の産業構造を反映した可能性試験を行ったこと、特に食品・生化学・廃木材の活用をとりあげ、成果を得たことは評価される。しかしながら、燃料電池や光通信部品など、世界のトップ企業がしのぎを削っている分野については、特許戦略もふくめた研究プロジェクトの企画が望まれる。平成13年度から地域結集型共同研究事業がスタートしているが、本RSP事業で構築された地域の産学官ネットワークをいかに活用・連携させるかは大きな課題である。青森県が本事業の実施により得られた成果をどのように活用・発展させていくか、拠点機関の活動とあわせてより一層の検討が必要である。

##### (2) 富山県

拠点機関：財団法人 富山県新世紀産業機構  
科学技術コーディネータ：南日 康夫  
事業実施期間：平成10～13年度

##### 1※地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

マイクロマシンング技術、センシング技術、メカトロエンジニアリング技術、真空利用技術等医薬分野と工学分野の融合をベースに置いて研究会・検討会が組織され活発に活動がなされたが、ニーズの掘り起こしが弱い面がある。特に富山の得意分野であるはずの医薬品関係については技術レベルの認識に甘いところがあり、産業界のニーズ把握に努める必要があると思われる。今後は、さらにニーズシーズの情報を整備・結合させていくことを期待する。

##### 2※可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

可能性試験は合計22件なされた。論文が8件と少ないものの、試験を通じ、「呼気中のアミノ酸測定装置」「DNAチップ製作用超微量吐出ノズルヘッド」が製品化され、「ハイパワー下方放射型蒸着法の開発」が実用化へ向けた研究に発展しており、製品化、実用化、新規プロジェクトの立ち上げなどの展開が広がりを見せている。今後は、研究進展によりさらに特許化や企業化が推進されることを期待する。

##### 3※コーディネータ活動の公開状況

パンフレット、ホームページ、新技術説明会等による可能性試験の紹介によって公開を行っている。また、各種のデータベースやパテントマップの作成・公開を行うなど実効性を考えた取り組みがなされている点が評価できる。

##### 4※地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

富山県では平成13年3月に策定された「新富山県科学技術プラン」に基づきコーディネータ機能強化を目指しており、RSP事業は重要施策として推進されてきた。RSP事業で構築された産学官ネットワークと従来シーズを基に「富山バイオバレー構想」を推進しており、「とよま医薬バイオクラスター」構想が平成14年度知的クラスター創成事業の試行地域に採択されており今後の発展が期待できる。引き続き南日康夫氏が科学技術コーディネータとして職務を遂行されることから、RSP事業の成果がさらに波及効果を及ぼすような活動がなされることを期待する。

##### 5※総合評価

コーディネータがRSP事業の趣旨をふまえ、独自の事業実施上の理念を築いた上で、事業開始時の状況把握から事業を推進、さらに終了時に自己評価を行ったことは評価に値する。また、若手研究者や次世代のコーディネータの育成活動も評価できる。拠点機関であった(財)富山県新世紀産業機構に「富山バイオバレー構想」の推進本部が設置され、かつ本機構は知的クラスター創成事業の管理主体ともなっており、今後この中でRSP事業で培ってきた産学官連携のネットワークやノウハウが生かされていくことを期待する。

##### (3) 福井県

拠点機関：財団法人 福井県産業支援センター  
科学技術コーディネータ：山口 拓治  
事業実施期間：平成10～13年度

##### 1※地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

福井県科学技術振興指針に基づく「シールド・磁気材料技術分野」等の5分野に加え、「バイオ応用技術」と「地球環境保全技術分野」につきシーズニーズの研究会が組織され活発に活動がなされた。「知能ロボット」「バイオ技術応用」「光工学」という特定技術分野の研究会も開催された。このように積極的な取り組みは評価できるが範囲が狭い点も見られる。県内大学等の研究シーズ情報等についてはアンケートを実施し情報収集およびその結果の発信を行い、また冊子も配布して研究情報整備を行った。今後は、情報の有効利用とUp-to-dateなものとなるような改定作業を期待する。

##### 2※可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

可能性試験は23件実施された。そのうち、「複合皮膜による水素吸蔵合金形成体の開発」は他事業へ展開され、「化学気相成長法による次世代磁気記録媒体の開発」「ドライ環境対応超強靱複合膜の開発」が福井県地域結集型共同研究事業に展開された点は評価できるが、全体として他事業への採択率はあまり高くなかった。今後は、研究進展により特許化や企業化が推進されることを期待する。

##### 3※コーディネータ活動の公開状況

大学等の研究シーズと企業ニーズを発掘するためのアンケート調査や訪問調査の結果をベースとして冊子「県内大学等の研究シーズ情報」「産学官連携による研究開発支援制度の手引き」を作成し情報を公開している。また、適時的確な情報発信を図るため、E-mailによるネットワークを構築し情報発信に努めている。これらは拠点機関とコーディネータの連携によりコーディネータ活動が積極的になされたものとして評価できる。今後は、可能性試験の展開状況やコーディネータ活動によって構築されたネットワークの最新状況を適宜公開されることを期待する。

##### 4※地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

大学との共同研究や委託研究が数年顕著に増加してきており、地域の産学連携の実証データとして評価できる。これは拠点機関である(財)福井県産業支援センターがRSP事業を通じ「待ちの体制から「攻めの体制」をとれるようになり、産学官連携の体制が強化されてきていることの現れと思われる。今後は、財団独自財源によりコーディネータ機能を継続発展させる予定であり、更なる展開を期待する。

##### 5※総合評価

福井県独自の取り組みとして東海5県RSP事業連絡会議への参画による県域を越えたネットワーク構築やラジオ番組への企画参加による県民への理解増進施策などの積極的な取り組みは評価できる。拠点機関である(財)福井県産業支援センターは、中小企業の研究開発から事業化までを総合的に支援できる新たな体制整備のために組織統合により設立されたものであり、新体制の下で有機的連携を図りつつ発展してきたものである。今後は、RSP事業の成果が展開されることを期待する。

##### (4) 岐阜県

拠点機関：財団法人 岐阜県研究開発財団  
科学技術コーディネータ：柴田 勝喜  
事業実施期間：平成10～13年度

##### 1※地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

地域ニーズの調査については、4年間で43件と必ずしも活発な情報収集を行ったとはいえない状況にあるが、助成事業等に関与した県内企業のデータベースを構築している点は評価できる。研究シーズの調査について、直接のシーズ調査は4年間で100件とあまり多くない。研究会活動については、当初、可能性試験の課題検討を行う研究会であったものを具体的なニーズやシーズを把握する場としてより実用的な機能を持たせるようになった点は評価できる。また、技術シーズデータベースや講師データベースなどからなる「岐阜県内研究開発人材データベース」を構築しており、今後は、これらの情報のより一層の充実と公開を期待する。

##### 2※可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

4年間で27課題の実施状況であり、課題数としては多くはないが、「世界初のパッチ式マイクロ波単独焼成炉の開発」など県内地場産業と結びついたテーマから実用化に結びつく大きな成果を上げているものと評価できる。また、可能性試験課題から3件の他事業への橋渡しも行われている。今後は、これらのテーマについて、引き続きフォローアップを行い、実用化、商品化に向けた支援が継続されることを期待する。

##### 3※コーディネータ活動の公開状況

事業リーフレットの作成や財団メーリングリストでの活動情報の提供、ホームページの作成、新技術フォーラムの開催など一通りの事業PRは実施している。また、600人分の人材データベースを含む「岐阜県内研究開発支援データベース」を整備し、CD-ROMとして広く関係者に配布しようという取り組みは特徴的であり、評価できる。今後は、これらの情報の適切なメンテナンスと公開を期待する。

##### 4※地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

新技術説明会、シーズダウンロードセミナー、ラボセミナーなど、大学等のシーズを企業に紹介する取り組みは活発に行われている。また、平成13年度からは、より具体的なテーマを設定した研究会である「研究開発クラスター」を設置するとともに、岐阜大学のエンジニアオフィス内に拠点機関の職員を常駐させ科学技術コーディネータとの連携を図るなど、特色のある新たな取り組みが始まっており、これらの取り組みの継続による活発なコーディネータ活動に期待する。

##### 5※総合評価

技術シーズと企業ニーズのマッチングを図るための様々な工夫がなされてきているものと評価するが、事業最終年度における科学技術コーディネータの交代によりこれまでの取り組みの継続性が失われてしまった感がある。また、地域結集型共同研究事業とは棲み分けを行っているが、逆に緊密な連携を図ることにより両事業の活性化を図るよう努めるべきであった。本事業終了後も県の単独事業である「研究開発コーディネータ事業」として大部分の取り組みが継続されることから、今後の成果に期待したい。

##### (5) 京都府

拠点機関：株式会社 けいはんな  
科学技術コーディネータ：相馬 勲  
事業実施期間：平成10～13年度

##### 1※地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

京都府にならびにけいはんな地域は、京都大学や奈良先端科学技術大学院大学をはじめ、有力な理工系大学や国際的な研究機関が立地し、また多数の研究開発型企業を擁する地域として、様々な潜在的な研究シーズ・企業ニーズが多数存在すると期待されるが、その傾向、必要性、将来性などの見通しに従いランク付けを行い整理をしないと、無駄と思われるものが多く見受けられる。15の分野別研究会を組織したが、ニーズオリエンテッドに徹して実施された点の自己評価はされていない。今後は、地域の特色を生かした各大学間の連携をより一層深めるとともに、京都の産業界との交流・連携に注力することを期待する。

##### 2※可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

多くの可能性試験が実施され、特許出願や実用化・商品化へ発展するなどの動きは評価できる。ただし、京都府ならびにけいはんな地域のポテンシャル全体を反映した試験課題構成に配慮すべきであったと思われる。具体的には京都大学の関与が大学規模からみて少ないことが懸念される。また、一つのテーマを複数年にわたって実施している点は、きちんとした評価の上に実施しているというよりは成り行きにまかしている感じが否めない。今後は、可能性試験の結果の活用について、試験を実施した研究会を中心として十分な検討を行うことを期待する。

##### 3※コーディネータ活動の公開状況

新技術フォーラムの積極的開催、大学リゾン会議等による情報提供への働きかけは、産・学・官の人的ネットワーク作り貢献したと評価できる。今後は、コーディネータ活動の成果を更に効果的に運用するための考慮と検討を行うべきである。また、京都府における独自の産学連携活動が盛んな大学等とも協同し、一層のコーディネータ活動の発展を期待する。

##### 4※地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

サブコーディネータの配置、インキュベーション施設の充実、中小企業総合センターけいはんな分室の設置等がみられ、大型の研究開発プロジェクトへの展開が図られるなど、多方面での波及効果がみられた。さらに、技術移動グループが成立するなど他地域にみられない展開は評価できる。しかしながら、コーディネータ機能の構築に対して、やや一貫性、一本化に欠ける面がある。今後は様々な研究ポテンシャルが存在する地域特性を活かしたコーディネータ機能の構築について一層の検討を期待する。

##### 5※総合評価

「エコライフ」をキーワードに、21世紀型社会に貢献する新技術・新産業の創出と育成、そのための産学官交流ネットワークの構築を活動の理念に据え、バイオ、材料、情報の3分野を軸として活動を行った。地域として、産や学や文化に思われ、又けいはんな地区という産業地域も整備中であり、本事業が果たした役割は大きい。今後は課題としては、拠点機関としての(株)けいはんなの今後の発展と、本事業実施期間中に得られた成果をいかに結び付けていくかを整理、検討することが重要である。

##### (6) 兵庫県

拠点機関：財団法人 新産業創造研究機構  
科学技術コーディネータ：松井 繁朋  
事業実施期間：平成10～13年度

##### 1※地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

ライフサイエンス、ナノテク・新製造・新素材、環境・エネルギー等の重点ごとに研究会を組織するとともに、これを積極的に開催し、活発な情報収集活動が行われた。主要研究会の代表を兵庫県内機関所属者に限らず依頼したことは、産業の広がりにして重要なことといえる。拠点機関である(財)新産業創造機構(NIRO)の活動とも同調し、研究情報の整備が良くなされている。ニーズシーズの結合も意欲的に試みられており、事業実施期間中に蓄積された各種情報を基盤として、今後一層の充実を図っていくことを期待する。

##### 2※可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

可能性試験はのべ41件実施され、分野的には環境・エネルギーが最も多く、ナノテク・新製造がそれに次いでいる。試験結果から発展し、全方向電動車いす、ウェアラブルセンサーといった商品化・実用化の動きが出ていること、また、クッキングオイル廃油回収システム開発や天然由来化合物の塗料・フィルムへの適用技術開発が県や国の支援制度を利用して、本格的な検討段階へ展開していることは、試験結果の活用状況として妥当なものとして評価される。新技術フォーラムでの試験結果の報告にとどまらず、学会発表・論文投稿等のアカデミックなアプローチを積極的に行うことを期待する。

##### 3※コーディネータ活動の公開状況

研究者データベースの作成やホームページでの公開、またマスコミを積極的に利用した本事業および可能性試験結果の公開を行っている。拠点機関が組織として的確にコーディネータ活動を公開してきたと評価できる。今後は公開情報の利用状況、および公開情報に対する反響などをきちんとフィードバックし、データベースの更新や地域独自のコーディネータ活動の充実が展開されることを期待する。

##### 4※地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

科学技術コーディネータ、およびコーディネータ機能を構築すべき拠点機関のいずれも適切であり、本事業実施期間を通じて着実にコーディネータ機能が構築されてきた。拠点機関である(財)新産業創造機構(NIRO)自身の活動を組み合わせて、今後、多方面にわたる波及効果が期待される。特に中小企業を中心とした産学連携の促進に期待する。

##### 5※総合評価

拠点機関である(財)新産業創造研究機構が、新産業の創出に係わる研究事業の実施を目的に設立されており、拠点機関本来の業務と本事業が有機的に結合し、全体として協働的な機能に進歩したと評価できる。高い研究開発ポテンシャルを有する地域性を今後とも活かすこと、そして、本事業で組織した業務を中心とするネットワークの充実を図ることは非常に重要である。兵庫県が新しい事業として平成14年4月から発足させた「兵庫県産学官イノベーションシステム整備事業」に本事業の成果をうまく結び付けていくことを期待する。

##### (7) 岡山県

拠点機関：岡山県産業振興財団  
科学技術コーディネータ：稲村 實  
事業実施期間：平成10～13年度

##### 1※地域ニーズ、研究シーズの調査状況と研究情報の整備状況

各分野にわたる活発な研究会(財団に設置)活動を中心に、企業出身の科学技術コーディネータがニーズオリエンテッドな情報収集を行っており、4年間で2900人に及ぶ人的ネットワークのデータベースを構築している点は評価できる。また、県の「産業支援ネットワーク」上で収集した研究者やシーズの情報を提供している。今後は、コーディネータ活動において収集したデータベースの活用を図ることはもちろんのこと、可能な範囲で公開する努力を期待する。

##### 2※可能性試験の実施状況および試験結果の活用状況

県の重点技術分野である「光技術」「循環型生産システム」「医用工学」の3分野に加え、各研究会から生まれたテーマについて、4年間で35件の可能性試験を実施している。これらの試験結果から「ヒューマンケア・インタラクションロボット」などが実用・商品化されるとともに、3件の科学技術振興事業団の技術移転プロジェクトに橋渡しされている。これら以外の試験テーマについても、引き続きフォローアップを行い、産業化、実用化を目指すことが望まれる。

##### 3※コーディネータ活動の公開状況

年1回の新技術フォーラムの開催により、可能性試験結果の報告とRSP事業の説明を行っている。また、11の研究會活動や大学研究室の公開などを通じて人的ネットワークを拡大しているが、今後はインターネットや各種広報媒体の活用により、なお一層のコーディネータ活動自体の広報に努めることを期待する。

##### 4※地域におけるコーディネータ機能の構築状況および波及効果

2900人のデータベースを構築したこと自体は科学技術コーディネータの熱心な取り組みの成果と評価できる。今後はこれらのデータのメンテナンスと有効な活用策を検討していく必要がある。また、平成11年度から3年間で6の大学、高専の研究室を公開するという独自の取り組みを実施しており、今後もシーズとニーズのマッチングを図る重要な機会として継続していくことを期待する。

##### 5※総合評価

企業のニーズを主体としたコーディネータ活動を行うという科学技術コーディネータの明確な理念、ビジョンが感じられるとともに、この理念に従って4年間事業が進められており、また、拠点機関としてもコーディネータの活動をサポートする体制が整備されていたことは評価できる。ただし、コーディネータの人的ネットワークや活動手法などが個人に帰属してしまっている感があり、組織としてこれらを地域に根付かせていくためにも、引き続き継続される財団のコーディネータ事業における取り組みに期待したい。

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成13年度終了地域事後評価報告書

平成14年10月  
科学技術振興事業団地域振興事業評価委員会

#### 5. 活動実績(終了報告書をもとに事務局作成)

##### (1)成果一覧

地域名	フォーラム (開催回数)	研究会 (回数)	可能性試験 (課題数)	他の事業への展開		
				文部科学省	経済産業省	その他
青森県	6	26	37	6	2	1
富山県	17	63	22	3	9	3
福井県	9	31	23	2	1	1
岐阜県	29	47	27	2	1	2
京都府	13	126	34	5	1	12
兵庫県	7	141	41	9	6	7
岡山県	5	160	35	1	1	0

# 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

## 平成13年度終了地域事後評価報告書

平成14年10月  
科学技術振興事業団地域振興事業評価委員会

### 5. 活動実績(終了報告書をもとに事務局作成)

#### (2)地域ごとの活動実績

<可能性試験テーマ名(カッコ内は実施年度)>

青森県 富山県 福井県 岐阜県 京都府 兵庫県 岡山県

地域名	可能性試験テーマ名	
青森県	抗血清を利用した迅速簡易診断法の開発(H10)	
	高付加価値種の新製造法に関する研究(H10)	
	リンゴ果汁中の糖分(甘味成分)分離による新製品の開発(H10)	
	ほたての貝殻及びウロ並びにイカの口口の処理とそれに伴う二次商品の商品化(H10)	
	微生物のエチレン分解除去能力を用いた青果物等の鮮度保持剤の開発(H10)	
	ウッドセラミックスの応用による高周波電磁シールド建材の開発研究(H10)	
	高周波誘導加熱を利用した殺菌技術の開発(H10)	
	骨粗鬆症予防食品の開発(H10)	
	パンブーセラミックス電極シートの開発(H10)	
	遺伝子情報を活用した作物病害の高感度診断法の開発(H10)	
	醤油醸造に関わるタンパク沈殿物生成促進物質の合成研究とその応用開発及び沈殿物の有効利用開発(H10)	
	大豆胚軸を利用した味噌の体内における抗酸化能の評価(H10)	
	米粉及び澱粉の品質評価システムの開発(H10)	
	雪を冷熱エネルギー源として通年利用する農作物の最適貯蔵システムの構築に係わる研究開発(H10)	
	ヒバ材を利用した木質系カーボン切断片によるクッション材料の開発(H10)	
	醗酵ひんご食物繊維を用いた風味機能性共に豊かなソースの開発(H10)	
	酒造好適米品種育成のための早期選抜システム確立に向けた検討(H11)	
	燃料電池電極へのウッドセラミックス適用の可能性検討(H11)	
	紫黒米に含まれる機能性物質の動脈硬化抑制作用の検証(H11)	
	タバコ生沈殿物(醤油オリ)の抗酸化活性成分の精製と機能性食品の開発(H11)	
	ハイブリッド機能を有する新規高速液体クロマトグラフィー用カラムの開発(H11)	
	農産物水産物におけるアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害物質の精製と生体活性機能の試験研究(H11)	
	ヒバ材を利用した橋下造影検査用椅子の開発(H11)	
	新素材による電気融雪マットの開発(H11)	
	風力・太陽光中規模ハイブリッド発電システムの研究開発(H11)	
金属イオン及び有機分子の簡便分析法の開発(H12)		
光通信用高信頼性広帯域光部品(光学薄膜)の開発(H12)		
ウッドセラミックス個体高分子電解質燃料電池リブ付きセルの開発(H12)		
幼牛へのサイトカイン投与による疾病抵抗性賦与に関する試験(H12)		
ホタテ貝殻の有効利用に対する化学処理総合プラントの開発設計(H12)		
トウモロコシ繊維を活用した生分解性繊維素材の開発(H12)		
米糠細胞壁の断片化による高機能性食素材の開発(H12)		
細胞内cAMPおよびcGMP可時アッセイキットの開発(H13)		
プロテオグリカン・シト・キアラールによる生体組織培養技術の開発(H13)		
光通信系ファイバーグレーティング素子の開発(H13)		
新規グラフト高分子による貴金属吸着等に関する研究(H13)		
複合機能型ゼンサ材料・素子の開発(H13)		
富山県	ゼンランシステムの研究～呼気中アンモニア濃度の測定方法の開発～(H10)	
	ゼンランシステムの研究～室内空気汚染度測定ゼンサの開発～(H10)	
	ごみ固形化燃料(RDF)の燃焼過程における無公害化の研究(H10)	
	可変性電子ビーム溶接システムの開発(H10)	
	マイクロマシン技術による6軸3次元加速度センサ及びマイクロポンプの開発(H11)	
	ハイブリッド下方放射型新蒸着源開発の可能性試験(H11)	
	廃棄物燃焼ガスの急速冷却法による無公害化の研究(H11)	
	高圧エネルギー利用による食品加工技術の開発(H11)	
	呼気中のアンモニア濃度の自動測定装置の開発(H11)	
	吸血昆虫・誘引駆除装置の開発(H11)	
	高効率有機エレクトロニクス素子の実現(H11)	
	高温過熱水蒸気による有機物質の分解処理技術研究(H11)	
	複数神経活動計測用多点微小電極の作製(H11)	
	水中360°ビーム撮影機構の開発(H11)	
	光学的小型・非侵襲型血糖値測定システムの可能性研究(H12)	
	山岳遭難者探索システムの開発(H12)	
	押出加工法を利用したマイクロ加工技術(H12)	
	糖尿等体質診断用DNAチップ評価機器の開発(H13)	
	超微量吐出ノズルヘッドの開発試作(H13)	
	在宅診断用超小型免疫ゼンサの開発(H13)	
	低侵襲血糖測定装置の開発(H13)	
	自然環境モニタリングシステムの開発(H13)	
	福井県	複合皮膜成長による水素吸蔵合金形成体の開発可能性試験(H10)
		化学気相成長法(CVD法)による次世代磁気記録媒体の開発可能性試験(H10)
		高分子膜・繊維への電子伝達機能付与による水素発生システムの構築(H10)
積層造形法を利用した精密部品の製造可能性試験(H10)		
環境汚染物質の迅速検出センサの開発可能性試験(H10)		
環状蛋白質ゼリンの遺伝子組換え技術による製造可能性試験(H10)		
人工光合成システムによるCO2の高効率光触媒エネルギー化技術の確立(H10)		
超臨界二酸化炭素流体による繊維・高分子の加工技術可能性試験(H11)		
フッ素複合化表面を持つリチウム二次電池正極活物質の作製(H11)		
ポリエステル繊維の耐久性のある機能加工技術の開発(H11)		
微生物の混合培養制御技術を利用した高度排水処理システム設計に関する研究(H11)		
崩壊時間を制御できる生分解性PLND高分子フィルム・繊維の開発(H12)		
ドライ環境対応超強靱複合膜の開発(H12)		
ポリエステル繊維の酵素加工技術の開発(H12)		
季節性多種魚を利用した完全利用型水産食品の製造(H12)		
人工透析廃液の微生物処理システムの開発(H12)		
FRP製ユニットバス表面の「ぬめり」除去技術の開発(H12)		
超音響分光法によるセラミックス部材の信頼性評価技術に関する研究(H12)		
超音波を用いた染色廃液からの染料分解・脱色システム(H13)		
超極細金属繊維の精密よこ入れ技術の研究(H13)		
耐紫外線向上プラスチック建材の開発(H13)		
医療福祉衛生のための生物資源利用新規人工皮膚膜の開発(H13)		
岩石の分光反射率および温度分布(温度変化特性)を利用した斜面検査手法の開発(H13)		
岐阜県		電気絶縁用セパレータの含有イオン透過性とガス遮断性の向上に関する研究(H10)
		人間型ロボットハンドの遠隔教示の研究(H10)
	植物系廃棄物から低カリウム甘味料キレート剤の微生物生産技術の確立(H10)	
	光触媒を用いた機能性繊維の開発(H10)	
	トライブロム現象解明による高強度・高品位粉末成形技術の開発(H10)	
	放射線防護材の開発に関する研究(H10)	
	レアメタルの化学反応を利用した加工技術の開発(H10)	
	傾斜機能型高性能吸音材の開発(H11)	
	高性能フッ素樹脂系表面処理剤の開発(H11)	
	微生物機能を活用したバイオプロセスによる希土類元素の分離技術の開発(H11)	
	プラズマ表面処理による高性能血管内治療用医療器具の開発(H11)	
	スギ、ヒノキ葉のクチン成分から油固化工剤、化学工業原料の製造、並びにその他の主成分の使途開発(H11)	
	磁気浮上式塗装システムの開発(H11)	
	ディスプレイ用平面放電管の開発(H11)	
	マイクロ波応用陶磁器焼成装置の開発(H11)	
	熱光発電システムの光波長選択エミッターの研究開発(H11)	
	サンドイッチ合成構造を有する大型貯水タンクの開発(H12)	
	ダイカスト鑄造溶湯凝固収縮過程における溶湯補給生向上のための加圧技術の開発(H12)	
	高機能デングル成型加工システムの開発(H12)	
	縦渦渦起による粉粒体空気輸送の高効率化(H12)	
	水の水分子構造の変化と生体反応に関する研究(H12)	
	リサイクル材を用いたポーラスエンクリート版の開発(H13)	
	高冷地野菜の高品質流通技術改善～貯蔵と結露防止策のシステム構築～(H13)	
	高精度土質評価システムの開発(H13)	
	地震危険度・設計用地震動の高精度評価システムの開発(H13)	
食品中機能性成分(かん転移阻害、抗リウマチ)の簡易測定法の開発(H13)		
ハードソフト分散調整による量産型リアルタイム画像検査システム(H13)		
京都府	高タンパク質素材を用いた調味料醸造(H10・H11・H12・H13)	
	刈り落とし茶葉材を用いた健康紙の開発(H10・H11・H12)	
	バイオリアクターによる酢等の生産(H10・H11・H12)	
	非接触・非破壊バイオリアクターモニタリングシステムの開発(H10・H11)	
	バイオリアクターによる油脂含有廃水の浄化(H13)	
	凍結による超高压の発生とその応用(H10・H11・H12・H13)	
	機能性を強化した味噌の開発(H10・H11・H12・H13)	
	機能性を強化した乳酸菌飲料の開発(H10・H11・H12・H13)	
	カーボンナノチューブ配合プラスチックの電圧遮断効果(H12)	
	カーボンナノチューブの産業への応用可能性研究(H13)	
	澱粉、ポリエステル、ポリビニルアルコール等を素材とする医療材料(H10)	
	植物性多糖類を用いたインテリジェント癒着防止材料の開発(H11)	
	ゼリンの生体適合性評価と機能性生体材料への応用(H13)	
	バイオマス資源とする高分子の合成(H10)	
	天然繊維系廃棄物の有効活用(H10)	
	ゾル-ゲル法による環境浄化型TiO2複合炭素材料の創製(H12)	
	超高温水蒸気発生装置の試作とそれによる木材、農産廃棄物及び多糖類等の新規利用法の開発(H12)	
	セルロース(葛、故紙)の新規炭化技術の応用による高度利用に関する研究(H12)	
	新規生分解性灌水マットの開発(H13)	
	新規表面機能材料の撻動・耐食特性の評価に関する研究開発(H10)	
	セラミックス積層多層膜を被覆した新規表面機能材料に関する研究(H11)	
	レーザーアシスト無電解析出によるマスクレス局所成膜(H13)	
	ハイブリッド材料を利用したガラスファイバーの表面機能化(H12)	
	無機マトリックスの構造制御による新しいハイブリッド材料の開発(H13)	
	有機高分子に水酸アパタイトを被覆したハイブリッド繊維の開発(H12)	
環境浄化用水産アパタイト析出有機高分子繊維の開発(H13)		
複合化による高機能・高性能ポリマーネットワーク材料の開発(H13)		
画像処理を用いた全方位映像システムの開発(H10)		
3次元物体カラーコピー機のための3次元非接触形状計測を利用したモデルの開発(H10)		
ネットワークマニピュレーションのための三次元物体カラーコピー機(H11)		
三次元立体プリンターのためのカラー画像の積層化立体の試作(H12)		
VRMLを利用した一般ユーザーのための協調ロボティクスシステム(H10)		
次世代対話型デジタル映像コンテンツの制作と高速ネットワーク配信分野(H13)		
画像処理を用いた全方位映像システムの開発(H13)		
兵庫県	植物利用浄化技術(ファイトレメディエーション)等新規土壌汚染浄化技術の効果確認・各種土壌への適用性確認のための予備試験(H10)	
	3次元靴型デザイン・造形・計測機能確認・改良に向けた予備実験(H10)	
	回収食用油の燃焼性確認・燃焼器改良のための予備燃焼試験(H10)	
	廃油回収システムに関する可能性試験(H10)	
	異性体分離可能なガス中微量物質の質量分析技術に関する可能性試験(H10)	
	安全で低コストなリチウムイオン二次電池に関する可能性試験(H10)	
	身障者の介護・生活支援機能をもつロボットに関する可能性試験(H10)	
	就労用・在宅自立用電動車いす(H11)	
	ウェアラブルセンサー及びシステム化(H10)	
	放射光による金属表面処理プロセスのin-situ分析装置(H10)	
	物流における品質保証システム機器の試作(H10)	
	革新的省エネルギー空調技術の確立(H10)	
	有機塩素化合物等への新規土壌汚染浄化技術の効果確認のための予備試験(H11)	
	廃食用油回収装置による回収試験(H11)	
	プラズマによる金属表面改質可能性試験(H11)	
	就労用・在宅自立用電動車いす(H11)	
	ウェアラブルセンサー及びシステム化(H11)	
	革新的省エネルギー空調技術の確立(H11)	
	高齢者向けエンタテインメント情報端末(H11)	
	リユース可能な吸湿シートの開発(H11)	
	気相放電性イオン種・活性種を利用した新規水浄化法の開発(H11)	
	電子ビームプラズマによる窒化処理(H11)	
	但馬沖深層水利用試験(H11)	
	高エネルギーX線利用残留応力評価技術の可能性試験(H11)	
	低環境負荷材料としての天然由来化合物のフィルム・塗料への応用(H11)	
重金属土壌汚染地域の定量的評価手法の開発(H12)		
環境に優しいめっき皮膜の作成と応用に関する可能性試験(H12)		
熱電変換素子利用による排熱利用発電システムの試作(H12)		
体動把握を用いた介護支援システム可能性試験(H12)		
有機廃棄物・特に食品廃棄物の再資源化システム評価手法の開発(H12)		
メカニカル反応を用いた微細表面改質可能性試験(H12)		
作物のガム抽出抑制剤と簡易分析法の開発(H13)		
TiO2光触媒による金属イオンの固定化と工場廃水浄化技術への応用(H13)		
水熱・水蒸気処理による有機廃棄物・食品廃棄物の新規資源化法の開発(H13)		
マイクロ波照射の均一・迅速・選択的加熱を活用した化学反応促進試験(H13)		
遠隔監視・制御システム用Linux/ソフトウェア(H13)		
金属とサメット溶解皮膜との界面強化に関する研究(H13)		
プラズマイオン注入法による超硬質薄膜の残留応力制御の可能性試験(H13)		
光学素子の内部欠陥ならびにエアギャップ計測システムの開発(H13)		
光学ガラスの超精密延性モード加工(H13)		
高齢者・障害者等にも容易に操縦可能な高速安全性ボートの開発(H13)		
岡山県	産業排ガスのリサイクルプロセスに関する基礎研究(H10)	
	人工骨及び人工関節用チタン系インプラント材に高生体親和性を寄与する表面加工技術の開発(H10)	
	全方向移動型抱き上げ介護ロボットの開発(H10)	
	建築用レーザー水平検出装置(H10)	
	出血性腫瘍壊死活性を有する金属ポリフィリンに関する研究(H10)	
	ヒューマンクォンタラクションロボットの開発(H11)	
	冷間鍛造によるスライパベルギアの製造研究(H11)	
	非接触計測器具の開発について(H11)	
	超高周波水晶体振動子製作法の研究(H11)	
	固定化還元酵素による環境ホルモン(ビスフェノールA)効率分解技術の開発(H11)	
	オンによる産業排ガスの新しい分解可塑性処理法の開発(H11)	
	自動車シュレックダスト及び廃鉱石からの有用資源回収プロセスの開発(H11)	
	超微細機械加工技術を利用したマイクロマシン部品、装置の開発研究(H11)	
	植物用予防薬の開発(H11)	
	小動物吸入麻酔装置開発に関する研究(H11)	
	水圏環境の保全・修復を目的とする排水処理プロセス技術の開発(H12)	
	金属/液界面活性化によるポリ塩化アリールの脱塩素化法の開発(H12)	
	鶏のサカ由来複合体の作用機構解明(H12)	
	吹屋べんがらならう現代高純度試薬からの超高級赤色酸化鉄顔料の研究開発(H12)	
	素子と有機金属表面皮膜の界面強化に関する研究(H12)	
	光照射(紫外線・可視光線・触媒)法接触法による病室などの脱臭対策と壁・床・天井の素材としての含銀ステンレス鋼の悪臭源バクテリアの増殖阻害効果解明(H13)	
	アルカリ洗浄剤に代わる安全で環境に優しい洗剤の開発と食品製造業への応用(H13)	
	高齢化ヒューマン工学の構築と対策用新規脱イオン処理・検出システムの研究開発 - 革新的脱イオン複合樹脂の開発とその応用の試み - (H13)	
	カプサイシン類似糖体の合成とその生理作用の開発(H13)	
	新規機能性食品としてのアレルゲンフリー醤油の開発に向けた基礎的研究(H13)	
天然物由来の新規花粉症治療薬の開発(H13)		
健康志向食品素材、特に豊富な薬効成分を含む「小麦紅麹+米紅麹」の開発(H13)		
食品加工における機能水の効果 - pH調整法を含む効果試験法の確立と食品加工への応用 - (H13)		
ガスケットにおける熱膨張による内熱膨張の燃焼制御法の開発(H13)		
音響を利用した丸木材の品質検査(H13)		
工具の摩擦および破損の自動診断システムの開発(H13)		
工場の加工性と強度を両立させる断面開口形状の断面形状に関する試験研究(H13)		
VLS製造における熱処理プロセスへの誘導加熱適用可能性評価(H13)		
廃棄物分解システムの開発(H13)		
表面積集法による標的指向性およびステルス性を具備したナノ微粒子キャリアの開発(H13)		

# 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

## 平成13年度終了地域事後評価報告書

平成14年10月  
科学技術振興事業団地域振興事業評価委員会

### 5. 活動実績(終了報告書をもとに事務局作成)

(2) 地域ごとの活動実績  
<ID> 諸事業に展開した例

青森県 富山県 福井県 岐阜県 京都府 兵庫県 岡山県

**青森県**  
(1) 文部科学省関係

- 独創的研究成果育成事業(平成10年度)**
  - 「加熱変性を防いだ無菌抗酸化・酵素不活性化型りんごジュレの開発」  
青森県農村工業農業協同組合連合会
  - 「新しい素材としての軟骨型プロテオグリカン」  
株式会社角弘
  - 「ウツセラミックスの応用による電極シート、電波吸収体の研究開発」  
三興電子工業株式会社、青森県工業試験場
  - 「超多加水種連続生産システムの開発」  
高砂食品、弘前大学
- 地域先導研究推進事業(平成12年度)**
  - 「積雪寒冷地における自然エネルギー利用技術の開発研究」  
有限会社豊孝環境設備工業、弘前大学
- 地域結集型共同研究事業(平成13年度)**
  - 「大画面フラットパネルディスプレイの創出」  
青森県

(2) 経済産業省関係

- ベンチャー企業育成型地域コンソーシアム(平成12年度)**
  - 「大豆胚軸からの血管保護ならびに耐糖能是正物質の発掘と未病者食品の設計」
- 地域新生コンソーシアム研究開発事業(平成12年度)**
  - 「環境調和型ウツセラミックスの高機能化に関する研究開発」  
青森県工業試験場

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

- 中小企業創造法研究開発助成**
  - 「トウモロコシ繊維を活用した生分解性繊維素材の開発」  
株式会社マリン

**富山県**  
(1) 文部科学省関係

- 独創的研究成果育成事業(平成10年度)**
  - 「省エネルギー・輻射冷暖房システムの開発」  
研究者: 武田 仁(東京理科大学建築学科教授)  
参加企業: (株)トヨクス
- 独創的研究成果育成事業(平成11年度)**
  - 「舌象診断支援システム」  
参加研究機関: 富山医科薬科大学、富山健康増進センター  
参加企業: 日本エレクロボサービス(株)
  - 「地域分散型ごみ固形化燃料無公害燃焼システム」  
研究者: 岩淵 牧男(富山大学工学部教授)  
参加企業: (株)宮本工業所

(2) 経済産業省関係

- ものづくり試作開発支援センター整備事業**
  - 「レーザー加工による製品高付加価値化に関する研究」  
実施主体: 富山県、富山県工業技術センター・中央研究所
  - 「マイクロマニピュレーション技術による高精度製品製造技術向上に関する研究」  
実施主体: 富山県、富山県工業技術センター・中央研究所
- 即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業(平成13年度)**
  - 「植物遺伝子導入を利用した代謝工学による有用物質生産技術」  
提案企業: 富山県国際伝統医学センター、(株)ニッポンソーテック ほか
  - 「マイクロマニピュレーション技術を用いた6軸運動量センサの試作」  
提案企業: (株)ワコ、マイクロジェニックス(株) ほか
  - 「光集積デバイス用反応性イオンエッチング装置の開発」  
提案企業: 富山県立大学、立山マン(株)、富山県工業技術センター ほか
- 即効型地域新規産業創造技術開発費補助金(平成13年度)**
  - 「肝炎ウイルス検出用のポータル型遺伝子アレイ計測装置の実用化」  
提案企業: 北斗科学産業(株)
- 地域創造技術研究開発事業費補助金(平成13年度)**
  - 「大型肉薄アルミダイキャスト製品の安定生産技術に関する技術開発」  
提案企業: (株)ナガエ
  - 「機能性合わせガラスの開発」  
提案企業: 新光ガラス工業(株)
- ウエルフェアテクノシステム開発(平成10年度)**
  - 「高齢者生活状況確認システムの開発」  
研究体制: 立山科学工業(株)、富山県工業技術センター、富山ウエルフェアテクノハウス研究会、高岡市ふれあい福祉センター

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

- 通信・放送機構: 列島縦断型研究開発用メガビットネットワーク整備事業(平成10年度)**
  - 設置場所: (株)富山県総合情報センター  
概要: 標記事業の接続装置の設置。希望調査に記載した研究テーマ14中6テーマがRSP事業関係
- (財)中部科学技術センター: 広域研究会(平成14年度)**
  - 「電磁プロセスによる高速ニアネットシェイブ成形技術の開発」  
実施機関: 富山県工業技術センター
- 雇用・能力開発機構: 地域高度技能活用推進事業**
  - 「室内空気汚染度評価センサーの研究開発」  
実施機関: 富山県電子電気工業会(E&E部会)、富山県工業技術センター

**福井県**  
(1) 文部科学省関係

- 独創的研究成果育成事業(平成11年度)**
  - 「複合ナックリ焼結電極を用いた高出力用逆ニッケル水素電池」  
研究機関: 清川ナックリ工業(株)、福井大学工学部
- 地域結集型共同研究事業(平成12年度)**
  - 「超鏡面精密洗浄技術の開発と機能性薄膜の創成」  
研究機関: 福井工業高等専門学校

(2) 経済産業省関係

- 即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業(平成13年度)**
  - 「ナノかつき技術による次世代二次電池の開発」  
研究機関: 清川ナックリ工業(株)、(株)田中化学研究所、福井大学工学部

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

- 福井県: 戦略的地域産官学共同研究促進事業**
  - 「網タンパク質ゼラチンの細胞培養工学・再生医学への適用可能性調査(ゼラチンを用いた新規培養の開発)」  
研究機関: セーレン(株)、福井大学工学部、福井県立大学生物資源学部、福井県工業技術センター

**岐阜県**  
(1) 文部科学省関係

- 特許化支援事業**
  - 「ロボット教示方法および教示システム」  
研究機関: 岐阜大学 川崎教授
- 委託開発事業**
  - 「高圧水蒸気による小径間伐材の高耐久性集材材」  
研究機関: 岐ゼン(株)

(2) 経済産業省関係

- 地域新生コンソーシアムエネルギー研究開発事業**
  - 「環境負荷低減型短時間・均質加熱焼成プロセスの開発」  
研究機関: 文部科学省核融合科学研究所 佐藤元泰教授

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

- 都府県共同研究促進事業(岐阜県研究開発財団)**
  - 「高性能電解コンデンサー用セパレータの開発」  
研究機関: 大福製紙(株)
- 中小企業技術向上奨励費補助金(岐阜県)**
  - 「薄型の自動車用室内蛍光灯の試作」  
研究機関: (株)三陽電機製作所

**京都府**  
(1) 文部科学省関係

- 独創的研究成果育成事業(平成11年度)**
  - 「ほうろこし種皮を原料とする生分解性プラスチック」  
研究機関: 三和製粉工業(株)
- 独創的研究成果育成事業(平成12年度)**
  - 「インテリジェント小胞着防止剤」  
研究機関: 日本メテック(株)
  - 「セラミックス薄膜積層化技術とプラスチック炭素化技術の融合化による高機能表面機能材料の開発」  
研究機関: (株)カオス
- 委託開発事業**
  - 「魚類ウイルス感染症サブユニットワクチンの開発」  
研究機関: 三和製粉工業(株)
- 先端原子力関連技術成果展開事業**
  - 「竹の熱交換によって調整される環境浄化炭素材料素材の開発と応用」  
研究機関: 小浜竹炭生産組合

(2) 経済産業省関係

- 地域コンソーシアム研究開発事業**
  - 「液晶用高品位カラーフィルタの安定かつ低環境負荷製造プロセスに関する研究開発」  
研究機関: (株)上山電機

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

- 課題対応新技術研究調査(F/S)事業(中小企業総合事業団)(平成11年度)**
  - 「廃棄物を原料とする複合炭素材の製造技術についての調査研究」  
研究機関: (株)カーボテック
- 課題対応新技術研究調査(F/S)事業(中小企業総合事業団)(平成12年度)**
  - 「刈り落とし茶葉を用いた健康壁紙の開発に関する調査研究」  
研究機関: (株)ファーマーズ研究所
  - 「油含有廃水の不織布を用いたバイオフィアクターによる浄化の研究」  
研究機関: 京都水研(株)
  - 「キチン・キトサン内填紙による環境浄化技術の実用化に関する研究」  
研究機関: エス・イー・ケミカル(株)
  - 「麻/バイオマスの樹脂化に関する研究調査」  
研究機関: フジカーボン(株)
  - 「プラスチックへの低抵抗透過導電膜の薄膜の形成に関する研究調査」  
研究機関: 相栄工業(株)
  - 「新しい超導材料による単線ボイスの研究およびこのボイスによる低コスト生産あるいは特殊金属材料の生産性向上に関する研究調査」  
研究機関: (株)上山電機
- 課題対応新技術研究調査(F/S)事業(中小企業総合事業団)(平成13年度)**
  - 「耐火性木材用難燃剤の開発および難燃木材の製造技術に関する研究調査」  
研究機関: 大京化学(株)
  - 「生体組織及び臓器の新規保存液開発に関する研究調査」  
研究機関: ファーマーズ研究所
- 中小食品産業・ベンチャー育成技術開発支援事業(食品産業センター)**
  - 「生理活性物質γ-アミノ酪酸を含む新規乳酸飲料の開発」  
研究機関: バイオアルビエ研究所
  - 「高齢者の為のGABA含有健康キムチ製造技術の開発」  
研究機関: (株)ファーマーズ研究所

**兵庫県**  
(1) 文部科学省関係

- 独創的研究成果育成事業(平成10年度)**
  - 「新形式防衛接岸装置」  
研究機関: シバタ工業
- 独創的研究成果育成事業(平成11年度)**
  - 「船体離岸防止装置」  
研究機関: シバタ工業
  - 「LiGAプロセスによるマイクロプロトタイプ」  
研究機関: 日本電子材料
  - 「自己免疫疾患の予後診断法の開発」  
研究機関: サラヤ
  - 「沿岸海域の健康診断システムの開発」  
研究機関: 川重マリンエンジニアリング
  - 「高輝度放射線光in-situ計測用超高温炉」  
研究機関: 西山製作所
  - 「積円振動切削加工法による難削材の精密加工装置の試作開発」  
研究機関: ヤマニシ
  - 「革新的省エネルギー空調技術の確立」  
研究機関: 川重テクノサービス
- 地域結集型共同研究事業**
  - 「再生医療にかかる総合的基盤技術開発」  
研究機関: 神戸市

(2) 経済産業省関係

- ものづくり試作開発支援センター整備事業**
  - 「3次元開発: 設計・試作総合システム」  
研究機関: (財)新産業創造研究機構
- エネルギー合理化福祉機器システム開発費補助金**
  - 「利便性と省エネの両立を可能とする電力管理機能を持つ次世代環境制御装置の開発」  
研究機関: (財)新産業創造研究機構
- 地域新生コンソーシアム研究開発事業**
  - 「3次元超微細構造製造技術の確立と次世代型携帯端末部品の開発」  
研究機関: (財)新産業創造研究機構、姫路工大、兵庫県立工業技術センター、フジレラム(株)、進工業(株)、日本電子材料(株)、(株)樹研工業、佐和鍍金工業(株)
- 即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業**
  - 「リソソを用いた低摩擦抵抗塗料の開発」  
研究機関: (財)新産業創造研究機構、新居浜高専、大阪大学、産業技術総合研究所、日本ペイント(株)、日本ペイントマシナリ(株)、日立造船(株)、甲陽ケミカル(株)、川崎重工業(株)
  - 「高機能肉盛材を用いた局部溶接法の確立と熱間工具等の超寿命化」  
研究機関: (財)新産業創造研究機構、大阪大学、兵庫県立工業技術センター、(株)黒木工業所、三木ナレリン(株)、(株)辻治工業所、名東産業(株)
- 地域創造技術研究開発事業費補助企業**
  - 「超急速二次電池充電器の研究開発」  
研究機関: テクノコアインターナショナル

(3) 都道府県独自事業およびその他事業

- 日本財団補助企業**
  - 「神戸港における港湾地区の多機能化による産業振興の可能性に関する調査研究」  
研究機関: (財)新産業創造研究機構
  - 「海上輸送促進を目的とした海陸空統合物流システムの構築に関する調査研究」  
研究機関: (財)新産業創造研究機構
- 課題対応新技術研究調査事業(中小企業事業団)**
  - 「真空プロセス用クラスター銃の実用化に関する研究調査」  
研究機関: 甲子園金属(株)
  - 「超塑性形成を利用したアート建材の制作に関する研究調査」  
研究機関: アークハリマ(株)
- 兵庫県新産業創造プログラム**
  - 「球車輪全方位移動機構の開発」  
研究機関: 寶角ギヤ
- 課題対応技術革新促進事業(中小企業庁)**
  - 「電池に損傷を与えず、且つ急速充電が可能な二次電池充電方式に関する研究調査」  
研究機関: テクノコアインターナショナル(株)
- 福祉用具研究開発事業助成金**
  - 「障害者の身体計測による基本体型の把握と着心地の良い衣服に関する調査研究」  
研究機関: (財)新産業創造研究機構、神戸芸術工科大学、兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所、兵庫県立生活科学研究所、(社)人間生活工学研究センター

**岡山県**  
(1) 文部科学省関係

- 戦略的基礎研究推進事業**
  - 「心が通う身体的コミュニケーション E-COSMIC」

(2) 経済産業省関係

- 新規産業創造型提案公募事業**
  - 「コミュニケーションにおける引き込み原理に基づく身体性共有型ロボットの研究開発」

## 地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業 (ネットワーク構築型)

### 平成13年度終了地域事後評価報告書

平成14年10月  
科学技術振興事業団地域振興事業評価委員会

#### 5. 活動実績(終了報告書をもとに事務局作成)

##### (2)地域ごとの活動実績

###### <III> 実用化・企業化された事例

###### 京都府

###### ○商品化、商品化が期待されるもの

###### (1) 商品化したもの

GABA含有食品(キムチ、カステラ等)  
工具用ハードコーティング  
炭入り日用品

###### (2) 商品化が期待されるもの

酒粕醤油  
茶葉含有壁紙  
バイオリクター  
非接触発酵プロセス監視システム  
凍結超高压装置  
インテリジェント手術時癒着防止植物由来高分子材料  
魚サブリットワクチン  
光触媒担持炭素材  
炭担持生分解性育苗床  
生分解性プラスチック  
非接触薄膜製造制御システム  
非接触表面テクスチャー映像化システム

###### ○ベンチャーの創設

###### (株)グリーンバイオ

バイオマスの有効活用を目的とした、京都大学・白石信夫名誉教授らによる創出。更に、木材の液化によるグリーンプラの製品開発を目指すグリーンベンチャー企業を現在準備中(京都大学・白石信夫、フジカーボン)

###### (株)セントメド

奈良先端科学技術大学院大学、京都工芸繊維大学のシーズを中心とし、平成11年度に実施した可能性試験「インテリジェント癒着防止剤」での成果を基に、更に開発を推進して事業化するためのベンチャー企業として(株)セントメドを平成13年12月に設立した。(親会社:(株)日本メディコ)

###### 岡山県

###### ○商品化した製品

###### 「うなづき君」

話して音声リズムを解析してうなづきと手振りでこたえるぬいぐるみ  
(2001. 1. 10発売)

###### ○ベンチャーの創設

###### インタロボット(株)

音声のみから豊かなコミュニケーション動作を生成する身体的コミュニケーション技術を提供している。ロボット、玩具、携帯電話、パソコン等、具体的に技術導入を進め、新たに身体的コミュニケーション産業に創出している。



## 「地域振興事業評価委員会」委員名簿 (平成14年10月1日現在)

氏名	所属
村山 洋一(座長)	東洋大学理事
岩瀬 明(座長代理)	岩手大学工学部教授
新家 健精	福島学院短期大学学長
大泊 巖	早稲田大学理工学部教授
川崎 仁士	日本植生(株)岡山研究所長
小林 賢次郎	日本政策投資銀行新規事業部長
小松 一彦	日本電信電話株式会社フォトリクス研究所長
桜井 靖久	東京女子医科大学名誉教授
鈴木 衛士	日研化学(株)顧問
豊玉 英樹	スタンレー電気(株)取締役研究開発センター担当
別府 輝彦	日本大学生物資源科学部教授
安井 至	東京大学生産技術研究所教授
安田 幸夫	名古屋大学大学院工学研究科教授

This page updated on January 15, 2003